

えど こばなし 江戸の小話 (その一)

- 1 昔々、ある村に、とてもケチ¹な男の人がいた。そのけ
2 ちぶりは、あたりの村々でだれひとり、知らない人はいな
3 かった。
4 ある日、その男の人は廊下で釘²に足を引っかけた³。見
5 てみる⁴と、古い釘の頭^{くぎ あたま}が出ている。ケチな男の人は奥さ
6 んを呼んで「おい、隣^{となり}へ行って、金槌^{かなづち}を借りて来い。3
7 年前に1度、秤^{はかり}を貸してやった⁷から、まさか嫌^{いや}とは言わ
8 ないだろう」と言った。
9 奥さんは早速隣^{さっそくとなり}まで行ったが、いつまでも戻って来な
10 い。しばらくすると、帰って来て「ねえ、あんた。何に使
11 うかと聞かれて、『釘^{くぎ}を打ち込む^うの⁸に⁹』」と言ったら、『そん
12 なもん打ったら、金槌^{かなづち}が減^へってしまうだろう』と言うんで
13 すよ」と言った。
14 「何だと、ケチなやつだね。じゃあ、仕方ない。もったい
15 ない¹⁰が、自分の金槌^{かなづち}を使わないと.....」

Vraag

1. Waarom wilden de buren geen hamer uitlenen?

¹'gierig'

²'spijker'

³ひっかける 'ergens achter blijven haken'

⁴Achter de て-vorm betekent みる 'ns (uit)proberen'.

⁵'hamer'

⁶'weegschaal'

⁷Achter de て-vorm betekent やる, net als あげる, 'geven', maar dan met een negatieve of zelfs neerbuigende bijklank.

⁸うつ 'slaan', ~こむ als tweede deel van een samengesteld werkwoord: 'in'

⁹'om te' ...

¹⁰'zonde, verspilling'